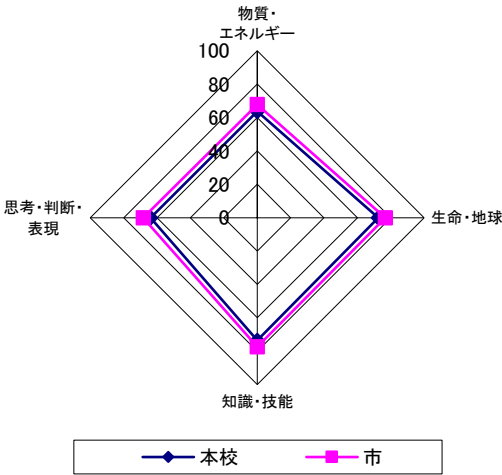


宇都宮市立細谷小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	63.7	67.8	64.1
	生命・地球	72.6	76.7	78.3
観点別	知識・技能	73.5	77.4	78.3
	思考・判断・表現	63.9	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●本校の正答率は63.7%で、市の正答率は67.8%であり、4.1ポイント低かった。内容別に見ると、天気の変化の「気象衛星の雲画像と雨量情報を結びつけて考えることができる。」が市より13.6ポイント低く、物のとけ方の「液体と固体を分ける方法をろ過と呼び、正しい操作をすることができる。」が市より12.2ポイント低かった。○電流のはたらきの「電磁石を強くする方法を理解している。」は市より4.8ポイント高く、物の燃え方の「ろうそくが最も長く燃え続けるものを推測できる。」は5.2ポイント高かった。	○問題文が写真のものは正答率が高く、表や図から読み取るものは低くなる傾向が見られた。算数の知識理解分野での習熟が必要と思われる。また、実験の操作については、実験の際に個々がきちんと操作方法を身に付けられるようにすることが大切だと思う。○個別の実験セットで実験したものは、正答率が高かった。また、実体験に近いものほど正答率が高かった。児童の体験や経験と学習内容を結び付けていくことで、定着を図る。
生命・地球	○「植物のからだのつくりとはたらき」の「植物の水の通り道について考える」問題では、正答率が市を13.5ポイント上回った。●本校の正答率は72.6%で、市の正答率76.7%を4.1ポイント下回った。●「動物のからだのつくりとはたらき」の「小腸と肝臓の働きについて正しい組み合わせを答える」問題では、正答率が市の正答率を12.7ポイント下回った。●「生物とかんきょう」の「動物が呼吸をして酸素を消費しても空気中の酸素がなくなる理由」を答える問題では、市を12.2ポイント下回った。	・実験の結果を図から予想する問題の正答率が高かった。児童が実験を行うことで理解が深まると思われる。実験ができない状況では動画を視聴することで、理解を深めていきたい。 ・「動物のからだのつくり」の学習は、動画の視聴や書籍による調べ学習が中心になる単元のため、学習内容の理解が難しかったのではないかとと思われる。今後は調べ学習で身に付けた知識を定着させるよう、授業のまとめなどに工夫をしていく。 ・文章の中に当てはまる言葉を選択する問題の正答率が低くなっている。国語の知識・理解の学力が大きく関わっていると思われる。実験や観察で得た知識を文章で表現できるよう、理科の学習でも書く活動を取り入れていく。